



子どもの虐待防止オレンジリボンキャンペーン



午前9時 県庁前を出発！



子どもたちへの虐待がなくなることを祈って
ポートタワーをオレンジ色にライトアップ

2024年11月3日 オレンジバイカーズ 報告

実に9回目を数えるオレンジバイク。
今年も3日午前9時、晴天の下、47台のオレンジバイカーズの皆さんが、心地よいエンジン音を響かせ千葉県庁を出発し、一路いすみ市のふるさと祭りへ。
沢山の人が集まる中での子ども虐待防止を願う啓蒙活動。そして、大多喜町にある道の駅“きらり”での活動を終え、千葉ポートタワーへ。タワーをオレンジ色にライトアップする点灯式では、タワーのタイマーが壊れ24時間ついたままというハプニングに見舞われましたが、無事終了。すべての子どもたちの健やかな成長を願い、解散となりました。



ポートタワーにて解団式

実行委員長 挨拶

まずは今回のイベントにて、登壇して下さった3名の若者と先生方、準備や運営に携わったスタッフの皆さま、当日で来場いただいた皆様に心よりの感謝を申し上げます。

久々の二部制での開催ということで、午前は縁日、午後は人権懇話会という形で、たくさん子どもや若者のエネルギーを感じることが出来た一日でした。

午後に登壇してくれた3名の若者は『声をあげれば、なにかが変わる！？』というテーマのもと、それぞれの想いや考えを主張してくれた中で、この声を聴いて我々は何を考えるのか。どう応えるのか。我々の責任を問われてる気がしました。

また来年以降も子ども・若者が主役のイベントを企画していきたいと思えます。

実行委員長 池口 豊（児童養護施設子山ホーム）

ちばこどもおうえん広場 実行委員会

NPO 法人 ちばこどもおうえんだん内
〒263-0051 千葉市稲毛区園生町1107-7
TEL:043-205-4046 FAX:043-205-4046
E-mail:chiba.kodomo_ohendan@fuga.ocn.ne.jp

主催 千葉県児童福祉施設協議会
ちばこどもおうえん広場実行委員会
後援 千葉県 千葉県教育委員会
千葉市 千葉市教育委員会
朝日新聞千葉総局 千葉日報社
東京新聞千葉支局 毎日新聞千葉支局
読売新聞千葉支局

第8回 ちばこどもおうえん広場 2024



& オレンジリボンキャンペーン 報告書



11月3日（日・祝）10:00～15:30
参加者 午前の部 107名
午後の部 46名

主催者挨拶

午前8時30分には恒例のオレンジバイカーズの出発式に参加。児童虐待防止のため県内走り、最終的にはポートタワーをオレンジ色にライトアップ。

今年は午前・午後の2部構成で開催されました。午前はボランティア活動をしている『いちえん会』『芸大関係者』で幅広い子ども達が参加し盛り上がりしました。

午後は、こども・若者によるトークセッション。「声をあげれば、何かが変わる」ファシリテーターの田村先生の進行でトーク。今回、出席予定の子が朝発熱で欠席。多くの意見が出ました。今後多くの高校生・卒園生の参加を望みます。

千葉県児童福祉施設協議会
会長 本間 敏子



当日スケジュール

午前の部
みんなあつまれ！えんにちだよ！&遊びのひろば

午後の部 第21回「千葉県子どもの人権懇話会」

1. 基調講和「声をあげれば、なにかが変わる！？」
お話：宮本みち子さん
（放送大学名誉教授・千葉市こども基本条例検討委員会委員長）

2. 子ども・若者によるトークセッション
養護施設で生活する子ども、外国にルーツがある子ども、障がいのある子ども
ファシリテーター：田村光子さん
（植草学園短期大学准教授・千葉市こども基本条例検討委員会委員）

第 21 回「千葉県子どもの人権懇話会」報告

基調講話

「声をあげれば、なにかが変わる!？」

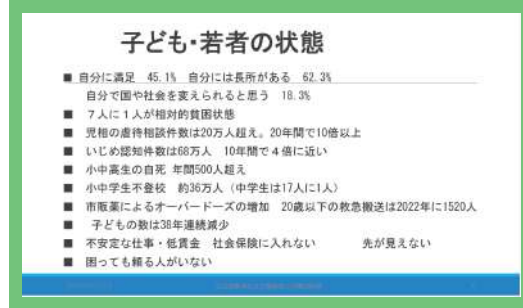
宮本みち子さん（放送大学名誉教授・千葉市こども基本条例検討委員会委員長）から、以下のお話がありました

「日本には子どもや若者を意思決定に参加させるという視点が無いのでは」という英国若者協会ユースワーカーからの指摘がある。国連子どもの権利委員会からも、子どもの参加を積極的に促進するよう勧告されている。

昨年4月のこども基本法施行、こども家庭庁スタートを受けて作られた「こども大綱」では、こども・若者を権利の主体として認識。多様な人格・個性の尊重。権利の保障。最善の利益。こども・若者・子育て当事者の視点の尊重。意見を聴く。対話によりともに進めていく・・・としている。

こども・若者の状態は、自分に満足45.1%、自分には長所がある62.3%、自分で国や社会を変えられると思う18.3%、児相の虐待相談件数20万人超、いじめ認知件数68万人、小中高生の自死500人超、小中学生不登校約36万人、先が見えない、困っても頼る人がいない・・・

このような状況を踏まえて、千葉市こども・若者基本条例(案)が成立する。来年1月、議会でも可決されれば4月に施



行される。こども・若者の権利の保障が具体的に列記され、「権利侵害に関する相談及び救済の仕組み、制度を作る」条文もある。第3章には「こどもや若者の意見の表明及び反映、並びに社会参加」。

なにかが、変わる！

子どもたちが意見を表明し、意見が受け止められ、それが世の中を変えていくということがどういうことなのか。

1990年代から、子どもの権利は勿論、意思決定への参画が EU 加盟国挙げての政策になって、各地の現場を見て来た。日本は 2 ～ 30 年遅れているが、今、行動が出てきている。例えば、児童養護施設で育った女性が社会的養護で育った 70 人の若者にインタビューした映画「REALVOICE」が公開され多くの反響を呼んでいる (<https://real-voice.studio.site/>)

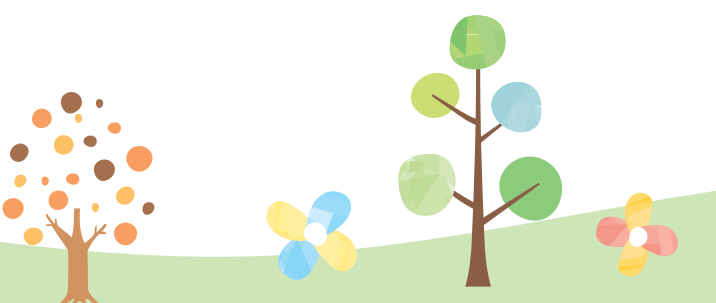
また「若者たちが諦めなくていい社会を」と募金活動をしている首都圏若者サポートネットワークや、「子どもの貧困解消法」に向けて国会ロビー活動を展開した「公益財団法人あすのば」の若者たち、など。 (文責：市川)

子ども・若者によるトークセッション

ファシリテーター：田村光子さん

(植草学園短期大学准教授
千葉市こども基本条例検討委員会委員)

今回、トークセッションに参加させていただき、本当にありがとうございました。個別それぞれの「いま」を生きているこども・若者のみなさんの思いを、少しでも皆様にお伝えするお手伝いができたならば光栄です。パネリストのこども・若者のみなさんの声に、ダイバーシティ&インクルージョンの考え方を軽やかに超える力、そして、大人や社会が「難しい」と感じている現実を変えていく力があると感じました。登壇した皆様のこれからの活躍をお祈りするとともに、こども・若者の意見表明と反映を保障する社会となることを願っています。



エレナさん

イラン人のお父さんと日本人のお母さん。生まれつきまつ毛が長く多くて、中学校の担任に「メイクしてるだろう」とまつ毛を引っ張られ、お母さんから言ってもらったら、担任は「そんなことしてない」と。自分も声を上げづらくなって、声を上げたら先生になんか思われるか、内申にひびくとか言っている子も多い。宗教上の慣習でピアスを付けて登校したら、先生たちに取り囲まれて注意され、クラスの中でも「あの子大丈夫?」と変な目で見られた。全日制の高校に進学したけど、自分の個性を出してやりたいことができなくて、人生って一度きりだから、将来美容師になりたいくて、今は美容室でアシスタントとして働き、4月から専門学校に通わせてもらい国家試験を受ける。

はるきさん

「学ぶ意欲が感じられない」と、「定員内不合格」で4月から高校へ行けなかった。はるきさんは「ぜったい行きたい」という思いを出し続け、周りの人々の支援を受けて、県教育委員会から「定員内不合格の是正」という通達が出され秋から高校に進学した。話すことが苦手で、自筆の文章をスクリーンに映写。信頼する介助者と参加。僕は10月に高校生になりました。毎日、みんなと先生と会いたい、学校に行きたいと思いました。今、高校で友達とお勉強大好きです。・・・

カラオケは歌って踊るデンジマンと希望山脈を歌うよ。大好きたくさんあるよ。みんなありがとうね。パソコンとピアノと英語、好きです・・・

もえさん

中学3年で児童相談所に保護されて施設に入り、下の3人とは月2～3回会える。どうして家族と住めないのかと思うが、今高校の福祉学科に通っていて、大学も福祉で社会福祉士の資格を取りたい。親と一緒にいないことで金銭面が一番不安で大変。アルバイトを始めて一人暮らしの資金を貯めている。親とか周りの環境で、自分の意思ではなく施設に住まなければいけない子どもが増えていて、そういう子たちが一人でも多く声をあげられる社会・環境を作してほしい。

大人や社会に、こんなこと理解してほしいってあるかな？

エレナさん

もっと理解してくれる大人が増えてほしい。高校行っている人が偉いとかいう考えはなくなってほしい。今、自分はちゃんと働けるし、税金も払ってちゃんとできている。少子高齢化で大人が多い社会だから、選挙は若い人たちがあんまり行けてなくて、行ったところで大人の人が多いので、多数決で大人の声が多く、大人の人と子どもの考えは違うので、国会でも少数派の意見もちゃんと聞かってことだけ聞いて終わりじゃダメで、ちゃんと取り入れてくれるような大人が増えてほしい。一人前の、指名を受けて満足していただける美容師さんになりたい。

はるきさん

学校では、みんなといっしょにやりたいことがある。不合格の通知を受けて、「高校生になりたかったです」(今)高校生にいるからです。(高校生をととても楽しみたい)

もえさん

親の代わりに家事をしていて中学生の時3年間不登校で、親から「学校にはちゃんと行け」と言われて「家事をしたくない」と言う「それはお前がお姉ちゃんなんだからやりなさい」と、聴き入れてもらえないと思ってからは言うことも諦めてしまった。中学の先生が家に来て話を聴いてくれて、たまに学校に行って、3年生の秋に先生からの勧めで児童相談所の人に会って、施設に入るようになった。養護教諭になりたいと思っているが、他の福祉の職種にも興味が湧いて、福祉系の仕事についていろいろ知りたい。

